

「最先端技術と伝統工芸技術の融合による 新和風額縁の開発支援」

支援の
ポイント

- ①高級額縁の試作の迅速化、低コスト化を実現する最新技術の導入支援
- ②「地域産業活性化基金事業」の認定および「地域資源活用事業」の申請を軸とした、事業化の推進
- ③大学や地元の高校と連携し、斬新な商品・デザイン開発を実施

支援の経緯

支援企業は1947年に長野県木曽村で創業した木工製品の製造販売会社である。主製品の張キャンパス用木枠（画材）では全国シェア7割を占める地域の有力企業であるが、木曽木材は低価格の輸入材に押され年々需要が減少し、新規事業の開発が急務となっていた。一方、絵画用額縁は今まで欧州などから輸入された洋風スタイルのものが殆どで、日本独自の和風テイストを持った額縁を求める声が美術館やプロの画家から寄せられていた。支援企業では自社の保有する技術・設備や地場の木材を使用して製品化し、絵画関連の販路が活用できる新規事業として、新和風額縁の開発を企画し、地元の木曽村商工会に事業化を相談。同商工会経営指導員の山口氏は、過去の支援活動で支援企業と深い信頼関係のあるNWアドバイザーの小口氏と協議の上、支援を開始した。

中山道宿場町



支援のプロセス

本業の木工製品の販売は年々需要が減少し今後の新規事業の展開が最大の課題になっていた。直面する課題を整理すると、

- ・木曽木材は低価格の輸入材・代替材料（プラスチック等）に押され国内の需要は減少の一途である
- ・木曽漆は伝統産業の強みを漆器以外の分野に活かしてきていない
- ・絵画用額縁は欧州などからの輸入品が多く、日本独自のデザインの額縁はほとんど存在していない

小口NWアドバイザーは、これらの課題解決策として地場の地域資源である木材を活用し、世界水準の木工加工技術と全国シェア過半の商品を保有する支援企業の強みを生かした和風額縁の開発に取り組むべきという方向性を、時間をかけた経営者との面談を通じて決定することができた。

課題解決の手法として、「長野県地域産業活性化基金事業」および「地域資源活用事業」への申請に取り組み、商品の完成度を高める為の専門家派遣（デザイナー）も実施した。

商品開発の為の最大の問題点は伝統工芸品に於ける職人の高コストと納期の長さにあった。この問題を解決する為に伊那商工会議所との連携支援で高い技術を有する伊那市の企業とのマッチングを実施、CADを用いスピーディーに、よりリアリティーを持った試作が可能になる額縁デザインツール（モデリング制作と彩色シミュレーション）を開発し、コスト低減と試作品の大幅納期短縮が実現できるようになった。



木曽漆沈金の和風額縁サンプル

さらに新商品の開発に必要な「箔貼り技術」を首都圏の企業から導入し、新規事業のスタートが可能になった。

また支援機関では地元高校のインテリア科との産学連携を構築し、全国でも数少ない林業を中心としたインテリア商品のデザインを目指す高校生の斬新な企画力を生かす環境を実現した。

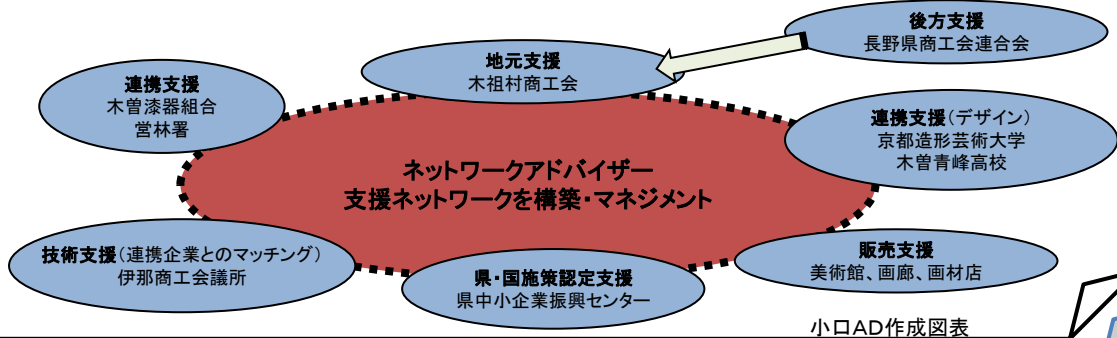
本事業は支援企業のビジネスだけに止まらず、地域にとっても減少している地場の天然木材の利用増大、木工産業の新規分野・商品開発、木曽漆の他分野への利用促進、さらには減少しつつある「箔貼り技術」や額縁職人の養成につながるものと期待されている。



木曽漆堆朱の和風額縁サンプル

★連携支援体制のポイント

県センターとアドバイザーの支援ネットワークを活用し地域を含めた幅広い支援連携体を構築



フォローアップ活動

地域資源活用事業の申請、認定取得に向かってはNWアドバイザー、支援機関、県センター、県木曽地方事務所、専門家による支援を継続。また伊那商工会議所と連携してマッチング企業との事業提携を推進し、試作の迅速化、額装デザインツールの開発、三次元プリンターを使用した実物試作技術の確立支援を行う予定。

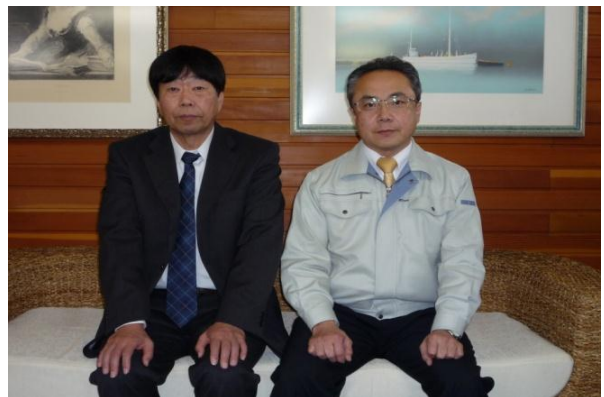
京都造形芸術大学（青木教授）との連携では、木曽漆や和紙を生かした日本画用額縁のデザイン開発を行い、県工業技術総合センターの技術支援も受ける予定。

OJTについて

小口NWアドバイザーは数年来の支援活動を通じて木祖村商工会とは深い信頼関係があり、今回の支援に際しては本事業の眼目の一つである支援機関指導員に対するOJTの実施ということを確認にして、事前に認識の共有と以下のようなOJTの目標設定を行った。

- ①企業が希望する課題別の現状分析と対応方法
- ②【専門家派遣】 課題対応した適切な専門家の選定と専門性の有効活用方法
- ③【公的施策活用】 施策情報、適切な施策選定、事業認定に向けた申請支援方法
- ④支援連携体構築手法

その上で自らは全体のコーディネート役に徹し課題によっては経営指導員が企業にアドバイスする場面を設定し、経営指導員が自信を深め主体的に対応する経験を積んでもらうよう主導した。



小口AD(左)と山口経営指導員